

「大瀬(おせ)神社」

静岡県沼津市

大瀬崎は、沼津市西浦江梨大瀬の北隅の海中に突出し、その長さは約 900 m で内浦湾口の要地を占めている。北方の海底には暗礁があり潮路の瀬になっているので大瀬という。また、岬の形が楽器の琵琶に似ていることから琵琶島とも呼ばれている。

中央に大瀬神社があり、式内社である引手力命神社であると伝えられている。

江戸時代の学者秋山富南は、「『日本書紀』にある 684 年の人民に多大な犠牲を出した大地震によって生じた島が大瀬岬で、琵琶島という呼称があるのは、昔は別に一つの島をなしていたからであろう。神が土佐国から土地を引いてきてこの島をつくったという伝説もあり、引手力命という神名をつけたのだろう。」という記述を残している。

岬の先端に淡水の霊池があり、池面は鏡のように静寂である。あたりは松柏鬱蒼としてその古木は曲がりくねって龍の姿を思わせる。大瀬崎一帯の樹木は天然記念物として指定されて以来保存育成を重ね、その数は数百本にのぼり、他に比類のない銘木も多い。

眺望は駿河一帯の景勝を眼前に集める趣があり、風光明媚な場所であるため、古来風雅を愛する文人や観光客に愛されてきた。

海の守護神として駿河湾一帯住民の信仰も篤く、船舶を新造するときは必ず参詣した。漁民は毎年参詣して安全と豊漁を祈念し、収穫が上がると報告に訪れた。

また、怪我をした源為朝が大島に流され、その後海を渡って大瀬にやってきた時に霊池をみつけ、船板で小屋をつくって神像を安置し、弓矢と武具を納め、この神に祈って傷をいやし、以前にも増して力を得たと伝えられており、昔から武術の霊験があるといわれ崇められてきた。

その後、津波で小屋と弓矢などは失われてしまい、本尊は祠をたてて祭りなおしたが、これも野火で焼失したという。現在は、残った文物が集められ祀られている。

近代には、日清・日露戦争の戦利品なども奉納されている。



大瀬神社

みどころ



- 日曜市：内浦漁港で毎週日曜日に開催される「奥するが湾日曜市」には、新鮮な農水産物を求めて多くの人が集まり、賑わいをみせる。
- 戸田造船郷土資料博物館：安政元年(1854)、来航したロシア軍艦ディアナ号が安政の大地震による津波等で沈没したため、近隣の船大工が協力して洋式帆船ヘダ号を帰国用の代艦として建造した。旧戸田村の博物館では両船の模型等を展示している。☎ 0558-94-2384
- 駿河湾深海生物館：戸田では古くから深海の魚類やタカアシガニの漁が盛んに行われてきた。生物館には一般の水族館ではなかなか見ることのできない深海魚の標本・剥製を約 300 種展示している。(博物館と併設)。